

(インドネシア) - 1件

1. 潜在性の高い46地熱プロジェクトが施行準備

2020年3月26日

エネルギー鉱物資源省・再生可能エネルギー・省エネルギー総局(EBTKE)は、第7回持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)に沿って、国のエネルギー需給を満たすため、環境に優しい地熱開発を通じてクリーンエネルギーの使用を最大限にすると発表した。現在 EBTKE 地熱局は、国家エネルギー政策(KEN: Kebijakan Energi Nasional)に関する2014年大統領令第79号に準拠し、地熱開発ロードマップを作成している。

2019年12月地質庁の最新データによると、インドネシアの地熱ポテンシャルは23.9GWあるが、この8.9%にあたる2,130.6 MWのみで利用されており、その多くは利用されていない。政府は、2025年までの地熱発電利用を16.8%にあたる7,251.5 MWに増加させることを目標としている。

地熱局探査・開発課のブディ・ヘルディヤント(Budi Herdiyanto)課長は、総発電量1,222 MWある46地熱プロジェクトを実行するためのロードマップを作成。今後はさらに5,000 MWを追加したいと述べた。また、2025年までの地熱開発ロードマップでは、41億米ドルの投資があると予想されている。2019年には16の地熱開発鉱区から、13,978(GWh)の発電があったと付け加えた。

インドネシアの地熱開発は100年の歴史があり、1926年オランダ植民地時代にカモジャン地熱井掘削が開始され、地熱発電所が1983年に稼働している。しかし、地熱発電開発は、比較的安価な化石燃料と競合できなかったため重要視されてこなかった。再生可能エネルギー(EBT)分野での技術開発によりコストが低下した現在、化石燃料と競合できる立ち位置にある。今後の地熱開発の課題は、プロジェクトの経済性とコスト効率化にある。

(出典:3月26日 EBTKE 地熱局ホームページ)